

肥満により 10 種のがんの発症増加

肥満度指数 (BMI) が高いと特定のがんに罹患しやすくなることが、過去の研究において示されているが、がんのリスクパターンの特性を、交絡因子を補正したうえで大規模かつ詳細に検討した研究はこれまでに行われていない。そこで、本研究では BMI と主要な 22 種のがんと関連を評価する前向きコホート研究を実施した。

英国のプライマリ・ケアの診療記録が登録された **Clinical Practice Research Datalink (CPRD)** のデータを使用し、線形および非線形モデルを用いてがんの発症に及ぼす性別、閉経状態、喫煙、年齢の影響を考慮し検討した。解析の対象者 524 万人のうち、166,955 人が対象となった 22 種のがんを発症した。BMI が 5 増加するごとに発症率が有意に上昇したがんは、子宮体がん (ハザード比: 1.62、 $p < 0.0001$)、胆のうがん (ハザード比: 1.31、 $p < 0.0001$)、腎がん (ハザード比: 1.25、 $p < 0.0001$)、子宮頸がん (ハザード比: 1.10、 $p = 0.0003$)、甲状腺がん (ハザード比: 1.09、 $p = 0.008$)、白血病 (ハザード比: 1.09、 $p < 0.0001$) であった。このほか、BMI と正の相関を示したのは、肝がん、結腸がん、卵巣がん、閉経後乳がん (ハザード比はそれぞれ 1.19、1.10、1.09、1.05; $p < 0.0001$) であったが、これらの関連には BMI や他の背景因子の程度でばらつきが認められた。

BMI と正の相関を示す 10 種のがんのうち、過体重や肥満に起因するがんの割合は、子宮体がんが 40.8%、胆のうがん、腎がん、肝がん、結腸がんが 10% 以上であった。また、英国の一般人口では、BMI が 1 上昇することにより、上記の BMI と正の相関を示す 10 種のがんのうちの 1 つを発症する患者が年間 3,790 人増加すると推定された。

以上の結果より、過体重や肥満は子宮体がんや胆のうがんなど 10 種のがんの発症増加に寄与していることが示された、

出典 : Lancet. Published online Aug 13, 2014; pii: S0140-6736(14)60892-8.